

病院・医療等対策特別委員会

▶ 特別委員会の協議経過

■第5回特別委員会

- 1) 日時 平成28年12月15日(木)
- 2) 内容 第3回中津川市公立病院地域協議会報告について
- 3) 報告事項

①第2回中津川市公立病院地域協議会議事録

②国坂下病院と美濃市立美濃病院(同規模黒字病院)との比較

- ・坂下病院の収益率が悪い要因の一つは、一般病床(急性期)を有しているのにDPC対象病院でないことが考えられる。
- ・美濃病院では、平成21年度にDPC対象病院への移行など積極的に改革を進めてきた。

③借地料について(市全体の借地料に占める割合)

- ・坂下病院 8.8%
- ・坂下老人保健施設 2.45%
- ・市民病院 0.15%

④中津川市医療提供体制等に関する提言書(案)

- ・まとめとして、提言書のまとめ案1、案2、案3を説明
- ・委員20名からの提言書(シナリオに対する意見、自由意見など)を掲載
- ・シナリオの賛否一覧

	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ④
賛成	3	10	2	3
反対	14	9	8	10
どちらとも言えない	1	0	8	5

⑤中津川市医療提供体制等に関する提言書(写)

本日、中津川市公立病院地域協議会から市長に提出されたもの

▶ 主な質疑

- Q: 付知の開業医が坂下病院に協力している事実は、委員さんたちは承知されているのか。
- A: 今回新たにサポートをお願いしたのではなく、数年前からの既成事実でしたのでその部分は議論になっていません。
- Q: この提言書に対して執行部から協議会へ回答するのか。

A：協議会ではその都度、質問に答えており、最終的に各委員からの提言書として提出されました。これに対して執行部から一つ一つ回答することは考えていません。

➤ 主な意見

- ・市の方針が出てから市民に説明するというのは、もう変更ができない。例えば最悪のシナリオ1に決定したとなっても、市民からは異議が出せない。そういう意味で7月の説明は良かったと思う。
- ・基準内、基準外の繰り入れ合わせて約10億円を続けて行くことは、今後市の財政的な圧迫になると思うので、負の財政状況を次の世代に送ることは適当でない。坂下病院の機能を縮小した場合については、市長の方針が出された後それを極力カバーする方策を立てることは当然のこと。私としてはシナリオ2を採用し、ただし、極力配慮することが適切だと考えます。
- ・坂下病院も市民病院も市民の病院だ。市民の施設だ。執行部はその管理・運営を任されているだけ。7月に急に坂下病院の診療所化の説明を始めた。性急過ぎる。今の段階で性急な結論は反対。坂下病院を未来永劫継続させることは無理だと思う。人口減少や社会情勢、国の医療体制の変化もある。それはその都度市民の皆さんに説明しながら変えて行くことが市政だと思う。12月の結論は、限りなく坂下、山口、川上の代表の皆さんから出された提言書に近い結論を出すべき。しかもそれ以上の運営ができるような努力も執行部として続けるべきで、その努力の状況も逐次開示して、理解を求めて行くことが重要。
- ・坂下病院だけでなく中津川市全体の病院を中心とした地域医療をどうしていくのかに主眼を置いて考えるべき。坂下病院だけに特化するのではなく、市民病院も大事な病院。中津川市全体、東濃東部の拠点病院として末永く存続してもらいたい病院なので、今後この2つの病院を存続するためにはどうするかについてを根本において、それを念頭に機能分担の検討を本来合併時点からやるべきであった。より市民のためになる方策を検討していただきたい。
- ・私たちが後期高齢者になるときを想定して、在宅医療にシフトしながら地域医療についても病院にかからない方向で国が動いていると思う。この小さな町では市民病院と坂下病院が何らかの役割分担をしていかなければいけないと思っている。しかし、地域医療を考えると、坂下地域、南木曽地域など現在坂下病院を利用している方の気持ちをどう汲んでいくかは、行政が地域医療に対してどう努力して行くのかが問われてくる。医師の確保は難しいと言われるが、医師の中でも数は少ないかもしれないが、坂下病院に協力してもいいという方が出てきたことは大事なこと。地域医療を含めて地域のことを考えて行くことが人口増加に繋がっていくと思う。
- ・大変難しいことだが、その時々をしっかりと把握しての政治的な判断や、行政はその時々合ったことをしていかなければならない。我々議員もその時々それなりの判断をする責任がある。両公立病院とも医師確保が厳しい時代が続いていて、さらに厳しくなってきたのではないかと痛感させられた。市民病院まで一緒になってダメにならないようしっかりと考えていただきたい。地域包括ケアを早期に構築するとあるのは、そのとおりだと思う。中津川市として政治判断をするときに、坂下病院のこれまで同様の経営は絶対無理だと判断する。その判断をより早く市長がされるのならしていただきたい。

- ・まず第一に大きな問題は医師不足。合併当時から医師が半減した。第二に大きな問題は財政。今回も5億円を超える赤字補填をする必要がある。現状のままの体制でいくと多分、6、7年すると中津川市の貴重な財政調整基金もゼロになってしまうと心配している。財政出動の全市民に与える影響は大きいのでしっかりと説明をしていただく必要がある。早く結論を出して、財政に影響をあまり与えないような方策をとっていただきたい。中津川市民病院は救急医療を担っており、命の砦としての役割を担っていただく必要がある。坂下病院についても医療体制が変わるかもしれないが、地域医療を担う機関でもあり、これから地域包括ケアをする上でも役割は大きいと思うのでその点も踏まえシナリオ2がベストだと思う。それにプラスアルファできれば良い。
- ・7月から市内数箇所で行われた地域説明会の冒頭、2つの公立病院を維持して行くためにどうすればよいかを検討している、ということでした。提言書のまとめでシナリオ2に対する賛成は19件、反対は26件あることもお含みいただきたい。当市としてもありとあらゆる手法を用いて大学医局への更なるアプローチを含めて更に努力していただきたいと思うし、地元の恵北医会、中津川医会、恵那医師会にできるだけ応援していただけるよう働きかけもお願いしたい。資金不足の問題については、今年度の補正予算で5億4千万円という金額を投入しなければならない。今年はそれで済むかもしれないが、来年以降これ以上の資金が必要だと予測される。地域包括ケアシステムを今後坂下を核として中津川市全体に広げて行くことを柱として両病院ともベストな病院経営ができるよう強く望む。一般質問でもお願いしたが、指定管理等で民間ということも更に研究していただきたい。
- ・この問題は大変難しい。財政については、お金さえ出せばそれでいけるということだが、限度がある。限度額を超えて他に影響を与えることはできない。地域から頼られている施設であることは承知しているが、坂下病院に代わる何らかの方法を講じることができないかを、縮小若しくは手を入れることに代わることを明確に出していただきたい。坂下病院を残すにしてもどのような形で残して行くかの検討がこれから先も必要。
- ・シナリオ2しか仕方がないと思うが、ただし、シナリオ2だけでは、坂下、木曽地域の皆さんへの医療の提供を考えると内科以外の診療科で残せるものがあれば最大限検討していただきたい。何とかプラスアルファを付けていただきたい。加えて縮小する部分について代わるもの、あるいはそれをカバーする対策、方法を早急に、方針を決定した後には出して欲しい。そのまま残していただくのが一番良いと思うが、病気とか命に関わるので当たり前だが心情的になる。そこを慮り過ぎると経営的な判断が鈍って、今回のようにどうしようもなくなってから何とかしなければということにつながると思う。早急にきちんとした方針を出していただいてそれに対する対応策として不安を一つでも拭いていただくような対応を要望する。安定的な医療を市民に提供する責任を感じていただき、難しい決断ではあるがそのためにご検討いただきたい。